

No.6	時代	江戸時代	遺跡	山陰道・野坂峠越え（津和野町）
------	----	------	----	-----------------

江戸時代の山陰道

津和野町で発掘された近世山陰道（野坂峠越え）は、江戸時代、石見と長州（山口）を結ぶ経済・文化交流のメインルートでした。道路の基礎や坂道での踏み石に使われた石敷き、側溝、排水路が残り、現代の道路と同じくらいの強度を持っていたようです。



学習のポイント

- 古来より中央と地方を結ぶ道路が整備されてきた。
- 道路を作る技術はとても高いものであった。

古代の山陰道

政治的な性格が強く、中央政府と地方の国府が連絡を迅速に行うために、最短・最速コースで整備された。道幅も広く、直線的にするために丘陵などは切り通しを設ける大規模な工事が行われた。



松本遺跡（松江市）

近世の山陰道

山陰道は江戸幕府における重要度は低く、各藩の参勤交代も別の経路を利用したため、時代が下がるにつれ庶民にとっての経済・文化交流のルートとしての性格が強まった。石見部においては、隣接する長州や九州方面への重要な交通路となった。

資料の出典

「山陰道（野坂峠越・徳城峠越）発掘調査報告書」 2008 津和野町教育委員会

江戸時代の山陰道

津和野町で発掘された近世山陰道（野坂峠越え）は、江戸時代、石見と長州（山口）を結ぶ経済・文化交流のメインルートでした。道路の基礎や坂道での踏み石に使われた石敷き、側溝、排水路が残り、現代の道路と同じくらいの強度を持っていたようです。



津和野町で、江戸時代の山陰道（野坂峠越え）が発掘されました。

上の2枚の写真を見て、道路の造り方や気がついたことをまとめてみましょう。

